



Citrix Workspace が VMware Workspace ONE よりも優れている 12 の点



デジタルワークスペースソリューションに必要なのは、ただ日々の業務を支援する機能だけではありません。従業員がいつでも、どこでも、自分にあったやり方で、能力を最大限発揮できる環境を提供するソリューションであるべきです。

シンプルで、柔軟性があり、使いやすいものでなければなりません。しかし、そのような従業員エクスペリエンスを提供できるメーカーは、実際にはそう多くありません。

お客様が新しいワークスペースソリューションの導入を検討している場合、おそらく Citrix Workspace と VMware Workspace ONE を検討することになるでしょう。ここでは、3つの分野において、Citrix Workspace が VMware Workspace ONE よりも優れている12の点をご紹介します。



Citrix Workspaceは日常的なタスクを整理、ガイド、自動化する機能を提供します。その結果、従業員エクスペリエンスと生産性の向上、より強固なエンゲージメントが育成できます。また雑音から開放され集中して仕事に取り組めるために業務の質も向上します。

整理

ひとつのワークスペース環境から利用者の業務に必要な情報、アプリ、コンテンツにセキュアなアクセスを提供します。

ガイド

業務を妨げる雑音を排除する、合理的なワークフローとパーソナライズされた情報フィード画面 - 本当に重要なものだけに集中できます。

自動化

機械学習を活用することで、日常のルーチンワークを自動化し、時間のかかる瑣末な作業を減らします。

1 インテリジェントな エクスペリエンス

Citrix Workspace

コンテキストを認識する統合ユーザーインターフェイスには、アプリケーション、ファイル、アクションボタンで応答できる通知カード、業務データを分析したインサイト情報などが表示されます。

あらゆるデバイスから同じ操作感でアクセスできるこのインターフェイスは、効率よく仕事を処理するための統合エクスペリエンスを提供します。

VMware Workspace ONE

ユーザーは複数のツールを使用して、ファイルやアプリケーションにアクセスする必要があります。VMware 環境ではニュースフィードやインサイト情報、マイクロアプリケーションなどの機能を提供していません。

2 制約のあるネットワークにおけるパフォーマンス

Citrix Workspace

SD-WAN テクノロジーはネットワークの状況に応じて、アプリケーション毎に最適化された通信経路を提供します。

Citrix HDX プロトコルは、低品質な通信環境でも Skype や Teams のようなアプリケーションを快適なユーザーエクスペリエンスで利用可能にします。

VMware Workspace ONE

ユーザーは、ファイルのロードや画面にコンテンツが完全に表示されるのを待機している際に、生産性が低下するのを目の当たりにします。また、テキストや画像の品質の低下にも悩まされます。

3 Microsoft Office との 統合

Citrix Workspace

モバイルユーザーは、Citrix Secure Mail に添付された Office ファイルをシームレスに開くことができるほか、他のモバイルアプリケーションに対するカット / コピー / ペーストがシームレスに行えます。シトリックスのファイル同期および共有テクノロジーは、Microsoft Teams と統合できます。

VMware Workspace ONE

モバイルユーザーは、VMware Boxer の電子メールに添付された Office ファイルを開く場合やコンテンツのコピー / ペーストを行う場合に煩雑な操作が必要となります。ファイルの同期および共有を行う VMware の Content Locker は、Microsoft Teams との統合が行えません。

4 コンテンツの共有とコラボレーション

Citrix Workspace

ユーザーはシンプルかつ効果的に、どこからでも、あらゆるデバイスで、社内・社外のメンバーと文書を共有することができます。パワーユーザーのために、カスタムワークフローを作成できるドラッグ・アンド・ドロップ式のウィザードもあります

VMware Workspace ONE

コラボレーションは、ファイルを編集して送ったり戻したりして同期する方法に限定されており、ライブ編集機能はサポートされていません。ワークフローをサポートしていないためセキュリティが弱くなるほか、紙の帳票のようなフォームを作成するには開発リソースが必要となります。

クラウド変革を成功させるためには、より多くの選択肢が選べることが重要です。

これは、オンプレミス、パブリック、プライベートのクラウド配信モデルから、あらゆる組み合わせを採用できるような柔軟性が重要になるということです。企業や組織は、ユーザーが好むモバイルデバイスをサポートすることをはじめ、ユーザーがより多くの場所で仕事ができるようにすること、そしてユーザーが仕事用のファイルを保存す

る場所やファイルにアクセスできる場所を増やすことが可能となります。これにより、ユーザーが同僚とシームレスなコラボレーションを行えるようになります。

しかし、選択の自由を与えることで、制御が犠牲になってはいけません。企業や組織は、ユーザー、デバイス、データ、ワークロード、ネットワークを中央で一元管理する必要があります。これにより、既存の投資を最大限に活用すると同時に、モダナイゼーションを実現できるようになります。

5 統一された 管理

Citrix Workspace

デジタルワークスペースを、オンプレミス環境および、パブリック/プライベート/ハイブリッドクラウド上に導入できます。これらの環境はひとつの統一された管理コンソールで運用することができます。

VMware Workspace ONE

Workspace ONEの各コンポーネントにはそれぞれに固有の独立した管理コンソールが付属しています。このため管理効率が低下するほか、トラブルシューティングがより複雑になります。

6 VDIプラットフォームのサポート

Citrix Workspace

仮想デスクトップインフラストラクチャをホスティングするハイパーバイザー、クラウド、あるいは物理プラットフォームを自由に選択できるため、最も費用対効果の高いプラットフォームを選択することで、運用コストを削減できます。

VMware Workspace ONE

VMware は、限られた仮想化プラットフォームのみをサポートしており、それぞれのプラットフォーム間で利用できる機能に一貫性がありません。柔軟性が限られているため、企業や組織は、迅速かつ効率的なビジネストランスフォーメーションを実現できません。

7 デバイスのサポート / アプリケーションの保護

Citrix Workspace

あらゆるデバイス OS をサポートし、コンテナ化およびモバイルデバイス管理のためのプラットフォームを選択できるようにすることで、アプリケーションを保護するための柔軟性を最大化しています。独自の microVPN を提供し、Microsoft EMS/Intune や Microsoft 365 とのシームレスな統合をサポートすることにより、最良のエクスペリエンスを高度なセキュリティと共に提供します。

VMware Workspace ONE

セキュリティ上の制約により、エンドユーザーが選択できるデバイスやアプリケーションの種類が限定されています。microVPN を提供せず、しかも Intune MAM との統合もサポートしていないことは、Microsoft 365 を利用するモバイルユーザーを抱える企業や組織にとってリスクの増大を意味します。

8 より充実した管理機能

Citrix Workspace

プロアクティブなサービス可用性の監視をはじめ、より効率的なユーザー障害対応や、豊富なログ管理レポートそしてあらゆるアプリケーションの俊敏な管理などを含むユニークな機能を通じて、より効率的なワークスペース管理を実現します。

VMware Workspace ONE

VMware は、ユーザーセッションに関する基本的なインサイト情報と限定的なレポートのみを提供しません。サービスの監視は行いません。アプリケーション管理には複雑なインフラストラクチャが必要となり、しかもすべてのアプリケーションを取り扱えるわけではありません。

セキュリティチームは、公衆回線を含むあらゆる拠点から接続してくるデバイスに利用される企業のデータ資産を守らなくてはなりません。

これらのセキュリティ上の懸念は、アプリケーションとデータをデータセンターから持ち出せないようにする仮想デスクトップの利用で一部保護することができます。ただし、これはあくまで部分的な解決にすぎません。ユーザーは更にSaaSアプリケーション

にアクセスする必要があります。これは、ユーザーが安全でないウェブサイトにアクセスする可能性があることを意味します。このため、セキュリティモデルでは、機密ファイルをUSBドライブにコピーすることやフィッシングメールを開くことのようなリスクな行動を考慮に入れる必要があります。これらの行動は、ビジネスをデータ侵害やその他のコンプライアンス関連のリスクにさらす可能性があります。

旧式の境界防衛のセキュリティアプローチでは十分な対応はできなくなっていて、新しいエンド・ツー・エンドのセキュリティの導入が必須となっています。これは、アプリケーションとデータを保護し、ユーザーアクセスを制御すると同時に、増え続ける数のデバイスおよびサービスをサポートすることを意味します。

9 アプリケーションの保護

Citrix Workspace

機密情報漏洩につながるパスワード盗聴ツールやスクリーンキャプチャ型のマルウェアから、あらゆるタイプのアプリケーション (SaaS、Web、Windows、Linux) を守ります。

VMware Workspace ONE

VMware は、キーロガーやスクリーンキャプチャなどの脅威に対する防御を提供していません。

10 クラウドアプリケーション セキュリティ

Citrix Workspace

セキュリティ管理者は、認可されていない SaaS アプリケーションやインターネットへのアクセスをブロックできるほか、機密データに対するコピー/ペーストやダウンロードなどの操作を禁止できます。セキュリティが強化されたブラウザにより、マルウェア、データ損失、エンドユーザーの行動に対する防御を行うほか、ウェブフィルタにより、不正なウェブサイトへのアクセスを規制できます。

VMware Workspace ONE

クラウドアプリケーションのセキュリティが限定されているため、セキュリティ意識の高い企業や組織ではサードパーティ製のソリューションを採用する必要があります。その結果、コストと複雑さが増大することになります。コピー/ペーストの制限がなく、電子透かしも提供されないため、機密データが SaaS アプリケーションから流出する可能性があります。

11 ユーザーの 行動分析

Citrix Workspace

Citrix Analytics は、ユーザーのふるまいをアプリケーション、デバイス、ネットワーク、データのレベルで統合的に分析して、内部および外部の脅威をプロアクティブに特定し対策できるようにします。

VMware Workspace ONE

分析範囲は限定的であり、AirWatchに登録されているデバイスや自社開発のモバイルアプリケーションのセキュリティを重視したものとなっています。

12 セキュリティ モデル

Citrix Workspace

Citrix Analytics のリスク分析型セキュリティモデルでは、リスクスコア解析を行うことで、データへの迅速なアクセスを求めるユーザーのニーズと環境の保護や管理を行う IT 部門のニーズとの間でのバランスを動的に取ることが可能となります。

VMware Workspace ONE

機械学習やスコア解析が利用できないため、管理者は静的なしきい値を定義する必要があります。これには、柔軟性がなく、エラーが起こりやすいという欠点があります。



VMware Workspace ONE を含む多くの競合他社ソリューションでは、生産性やエンゲージメントの向上を約束していますが、従業員エクスペリエンスを変革し、従業員の潜在能力を最大限に引き出すことができるソリューションは、Citrix Workspace だけです。

詳細については citrix.com/ja-jp/workspace をご覧ください。

